



# JASDAQ

平成 27 年 12 月 25 日

各 位

長野県伊那市西箕輪 2148 番地 188  
株式会社イナリサーチ  
代表取締役社長 中川賢司  
(コード番号：2176)

問い合わせ先：執行役員 総務部長 野竹文彦  
電話番号 0265(73)6647

## 信州大学との社会連携協定締結についてのお知らせ

当社は、多面的な連携により、研究開発、製品化、人材交流・育成、社会貢献等の分野で相互に協力し、科学技術の振興および産業と社会の発展に寄与するために、信州大学先鋭領域融合研究群（以下「信州大学」という）と、社会連携協定を締結いたしましたので、お知らせ致します。

### 1. 経緯と今後の見通し

当社は、信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所の柴祐司講師の研究チームと MHC 統御カニクイザル（注）を用いた心臓病の iPS 細胞による治療法開発に関し、iPS 細胞から作製した心筋細胞を心筋梗塞部に移植する事により、心臓の機能を取り戻そうとする共同研究を進め、本年 8 月に心機能の改善を確認いたしました。心筋梗塞の後遺症等により心不全リスクを抱える患者にとって、画期的な治療法となることが期待されており、更に研究を進めております。

この成功はひとえに柴講師及び信州大学の持つユニークな発想と iPS 取り扱いや施術面における先端技術、当社の持つ MHC カニクイザルというモデル動物やその動物取扱、特に術後管理に関するノウハウ、レンタルラボや CT スキャンといった器具機材等の融合による総合力の賜物であります。

信州大学と当社はこの共同研究での経験と体制を二者間の成果に留めず、広く再生医療の発展をめざそうとする研究者へ開放することが社会的責任であると判断し、ここに信州大学の持つ医療技術や iPS 細胞の取扱技術と当社の持つ MHC カニクイザルをはじめとするモデル動物の豊富な取り扱い技術、経験を広く国内外の研究者に利用していただくための、信州発 再生医療・バイオメディカルコンソーシアムの設立に向け、社会連携協定を締結するに至りました。

### 本コンソーシアムが目指すもの：

本コンソーシアムは、第三者の研究者が持つシーズの研究を信州大学と当社の共同研究の体制の中で有償受託し、研究者に効率的に成果物を得ていただくとともに、相互の研究能力の向上を図り、医療の発展に寄与しようというものであります。

具体的には、第三者が iPS 細胞を使った疾病治療法等を開発する過程で、以下の事項等に関して本コンソーシアムメンバーがアイデア、場所、機器資産、技術ノウハウ、人的協力を提供いたします。

- ① 研究方針のコンサルテーション
- ② 非臨床試験での実証研究と安全性・有効性の評価
- ③ 臨床応用
- ④ 事業化の検討、推進

## 両者の役割：

### ①信州大学：

- ・本コンソーシアムの中核としての役割
- ・大学・病院の研究者の協力
- ・大学・病院の設備機器の利用
- ・臨床研究への協力

### ②当社：

- ・非臨床試験、臨床試験、安全性・有効性確認検査の実施、手配
- ・第三者機関への PR と研究受託
- ・モデル動物の作成、供給、レンタルラボでの維持管理
- ・許認可関連事項のコンサルテーション、申請代行
- ・特許出願管理
- ・翻訳請負、投稿への協力
- ・参画メンバーの募集、コンソーシアム組織の事務局機能

## 2. 業績への影響

本件により、当社には再生医療等製品の有効性・安全性・動態等の受託試験の取り込み、再生医療研究に関するノウハウの蓄積と研究人脈の拡大、受託研究から派生する特許及び新製品の獲得等の成果が期待されています。

当期においては本件が当社グループの業績に与える影響は軽微であります。来期以降の業績への影響については現在算定中であります。

## 用語の説明

(注) MHC 統御カニクイザル

MHC 統御カニクイザルは当社と信州大学・東海大学・滋賀医科大学が共同で開発した遺伝子解析方法に基づき、免疫に関わる遺伝子型を揃えたカニクイザルを指します。iPS 研究に適合したヒトにいちばん近い試験系として、さらにその他免疫反応に関わる医薬品の開発や、新たな移植技術の確立用途としてその利用価値が評価されており、現在、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の A-STEP 事業として研究と計画生産を推進しながら、移植・再生医療技術の開発やバイオ医薬品開発を進める複数の大学や研究機関に対して弊社より供給を実施しております。

社会連携協定の概要：添付資料をご参照ください。

以 上

# 信州大学先鋭領域融合研究群と 株式会社イナリサーチとの**社会連携協定**



## 国立大学法人信州大学

- 再生医療研究の推進
- モデル動物を用いた移植医療技術の確立
- 再生医療に携わる人材の育成
- 先端医療の実施  
(iPS細胞等幹細胞を用いた疾病治療の臨床応用)



## 株式会社イナリサーチ

- 新規安全性試験・薬効試験の開発  
(iPS細胞等幹細胞を用いた疾病治療の安全性・有効性を確認する非臨床試験系の確立)
- 再生医療に関する研究人脈の拡大
- 医学に精通した人材の育成

### 目的

再生医療関連技術の開発について、相互に連携し協力することにより、我が国における当該技術の開発に係る共同研究の推進及び当該技術を活用した再生医療の実現に寄与する。

### 内容

- 1) 信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所とイナリサーチとの高度な科学技術連携により、iPS細胞等を用いた疾病治療を実用化し再生医療を牽引する。
- 2) 広く研究者を受け入れる社会連携という枠組みにより、信州大の研究者が自由な発想で参画することが可能となり、新たな研究課題の創出が期待できる。
- 3) iPS細胞を用いた移植医療技術の早期確立により、iPS細胞の開発国である日本の優位性をさらに高め、国内企業による再生医療における国内市場の確保と世界市場へ進出に寄与する。
- 4) 第三者（企業・アカデミア）の抱える開発研究課題に関わる研究を請け負う。
- 5) 協力して研究資金等を獲得し、医療の進歩のための研究開発を進め、社会に貢献する。
- 6) 医学研究者と企業研究者が、相互に異分野の科学技術に精通するための教育を行い、協力して知財を創造・活用・保守すると共に、知財教育・人材育成を実践する。



マイクロCTによる測定

### 連携協議会

#### 評価・管理

- ・ 社会連携活動内容の評価
- ・ 予算/共同研究の進捗の管理

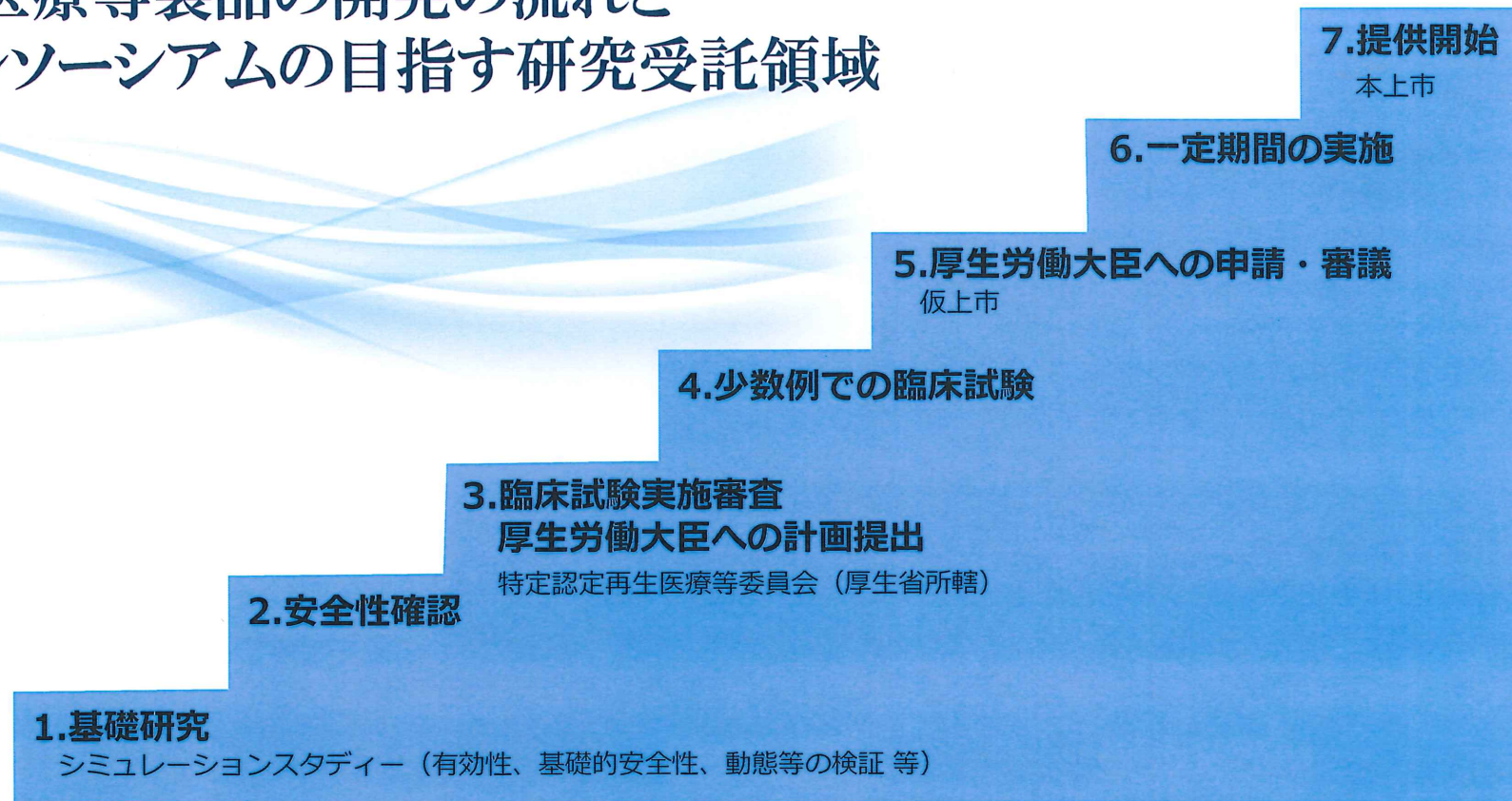
◆ **社会連携協定書 締結 平成27年12月25日**

有効期間：3年間（平成27年12月25日～平成30年12月24日） ※連携協議会の評価に基づき更新可

**信州発 バイオメディカルコンソーシアムによる再生医療技術開発の実現**



# 再生医療等製品の開発の流れと 当コンソーシアムの目指す研究受託領域



※第一種再生医療等のケース

コンソーシアム

信大 医学部

イナリサーチ

